

知床の窓から見えるもの

2014年3月31日（月曜日）

「羅臼の人の強さ」

世界自然遺産で海がある羅臼町に、釧路からやってきたリハビリの技師です。

今回は、診療所3階の通所リハビリセンターに通っている利用者様の自慢話をさせて頂きたく、このページをお借りします。

さて、普段何気なく過ごしている日常生活の中で、ある日突然、脳卒中で倒れてしまい、身体の半身に麻痺が残ったとしたら、皆さんはどうしますか？まさか自分が・・・と思ってしまう方が多いのではないのでしょうか。今まで通りの生活が送れなくなるかもしれないという不安だけではなく、生きがいや楽しみ、社会的役割の喪失など、その方が抱えるショックや試練というものは、はかりしれません。多くの利用者様は「どん底を味わった」と脳卒中の辛い経験を話してくれます。

そんな脳卒中という大きな試練にも負けず、手が不自由ながらも一生懸命、通所リハビリでの作業活動に取り組んでいる方々が、診療所の3階に通っています。ある利用者様が、作業活動で作った作品の一部がこちらです。



羅臼の通所リハビリセンターに通う利用者様は、皆さん一生懸命です。大自然に囲まれて、朝早くから夜遅くまで働いていた経験、さらには脳卒中という思い病気にも負けず、たくさんの苦労や試練を乗り越えただけあって、一日一日の生活に対してのやる気が満ち溢れています。

最後になりますが、私は、素晴らしい利用者様達から逆にパワーをもらったり、多くのことを学ばせて頂いたりしています。皆様のお手伝いができる日々は充実しており、感謝しています！